

富山県とロシア沿海地方の 友好提携20周年記念事業

富山県観光・地域振興局国際・日本海政策課

富山県とロシア連邦沿海地方は1992年8月26日に友好提携を結び、2012年で20周年を迎えました。沿海地方はロシア南東の日本海側に位置します。富山県にとってロシアは北洋材の輸入をはじめ、長年主要な貿易相手国でした。特に、ロシア極東地域とは古くから結びつきが強く、地理的な近さもあり、人的往来も盛んに行われてきました。また、20世紀後半には東西冷戦の緩和を受け、環日本海を取り巻くグローバルな経済、文化圏形成の動きも見られたことから、両地域間に相互交流への関心が高まりました。このような中、1992年8月、両県地方は富山県で友好提携を締結し、以来、20年にわたり富山県職員の派遣、沿海地方留学生や技術研修員の受け入れなど人的交流、文化、経済、環境など幅広い分野で交流を行ってきました。以下、2012年度実施した本県と沿海地方の友好提携20周年記念事業を中心に、両県地方の交流について紹介します。

日本語学習支援

～日本語スピーチコンテスト開催～

2012年5月、富山県は沿海地方に友好提携20周年を記念した友好訪問団を派遣しました。沿海地方政府や極東連邦大学、ウラジオストク国立経済サービス大学などを表敬訪問し、今後の交流について意見交換を行ったほか、5月20日には、富山県、在ウラジオストク日本国総領事館、沿海地方政府の主催により「ウラジオストク日本語スピーチコンテスト」を開催しました。

第19回となるコンテストには、日本語を学ぶ児童や大学生ら20人が参加し、高校生以下は「私の宝物」をテーマに、また、大学生以上は自由テーマでスピーチを行い、日頃の学習の成果を披露しました。出場者の発表はいずれも創意工夫のなされたもので、また、会場には多くの市民が足を運んでおり、沿海地方における日本語教育のレベルや関心の高さを実感しました。

コンテストの合間には富山クイズを実施し、クイズ大会参加者は富山県の観光地や食べ物に理解を深めたようで、「富山に行きたくなった」との声も寄せられました。コンテスト終了後、参加者を囲んで開催した交流会で富山県のお菓子5品を提供したところ、大変好評で、富山の味をPRす

る良い機会となりました。なお、コンテストの「大学生の部」優勝者には副賞として富山旅行を贈呈しました。



日本語スピーチコンテスト「大学生の部」参加者

日本語学習支援は、富山県が沿海地方との交流の中でも、特に力を入れ続けてきた取り組みです。日本語スピーチコンテストのほか、富山県では1992年度より、毎年1～2人の大学生を富山県内の大学で、県費留学生として受け入れており、本県と沿海地方との相互理解、協力関係の促進を図っています。過去の県費留学生の中には、富山県での留学経験を生かし、大学卒業後に日本の自治体で国際交流員として働く者もいます。現在、ロシアでは中国との交流の高まりから中国語を学ぶ学生が増えており、この影響として日本語を学ぶ学生が減少し、沿海地方でも日本語学科を閉鎖した大学もあるようです。今後、日本とロシアの

交流を維持・発展させるうえで、沿海地方における日本語スピーチコンテストや県費留学生・技術研修員の受け入れなど、日本語学習支援を通じた日露交流の人材育成が大切だと考えています。

富山県PR事業や青少年交流

2012年度の友好提携20周年記念事業としては、日本語スピーチコンテスト開催のほか、ウラジオストクで開催された「太平洋国際観光博覧会」に富山県ブースを出展し、本県の観光パンフレット配布やDVD放映などにより観光情報を発信しました。また、極東連邦大学、ウラジオストク国立経済サービス大学の2大学で、両県地方の交流の歩みや富山県の観光名所、自然、産業などを紹介したパネル、ポスターを展示し、富山県のPRに努めました。

このほか沿海地方の教育機関5か所に、富山にゆかりのある漫画家の作品を収蔵した「とやま漫画文庫」を贈呈しました。収蔵作品には、子どもから大人まで多くの人に親しまれ、日本を代表する本県出身の漫画家、藤子・F・不二雄さんの「ドラえもん」のほか、本県を舞台にした漫画が含まれています。漫画はアニメと並んで日本を代表するポップカルチャーであり、日常会話の日本語を学べるだけでなく、描かれた世界を通して日本文化を理解することにも役立ちます。「とやま漫画文庫」は各教育機関の図書館などに配架され、多くの生徒たちに活用されているようですが、1人でも多くのロシアの青少年に日本語や日本文化、そして富山県に関心を持ってもらいたいと思います。



日本語教育機関への「とやま漫画文庫」目録贈呈

2012年11月には、クレアの助成金制度を活用し、沿海地方より青少年舞踊団・ダンスアンサンブル

「サブページエ」を招へいし、「ロシア沿海地方・青少年舞踊フェスティバル」を開催しました。フェスティバルでは6歳から17歳までの団員15人が「モスクワ郊外の夕べ」などロシア民族舞踊を披露し、富山県民にとって、ロシアの文化に触れる貴重な機会となりました。なお、舞踊団は県内滞在中、県内高校生とも交流を行っており、次代を担う青少年の友好交流も図ることができました。



富山県庁を表敬訪問した青少年舞踊団

最後に

2012年9月、ロシアで初めてのアジア太平洋経済協力首脳会議がウラジオストクで開催されたこともあり、市内では新しい空港や橋、道路建設など大規模なインフラ整備が進み、街は大きな変化を見せています。

富山県としても、過去20年以上にわたる交流の成果を踏まえ、沿海地方政府とも協力をしながら、交流事業を継続していきます。2013年も5月に富山県より訪問団を派遣し、第20回となる日本語スピーチコンテストを開催し、また、沿海地方より県費留学生や技術研修員を受け入れています。このほか、最近では、本県の伏木富山港とウラジオストク間に就航する三つの貨物船航路を積極的に活用した経済交流の推進に努めており、2013年度からこの航路とシベリア鉄道を組み合わせ、日本からヨーロッパ向け貨物を輸送する実証実験を行う「シベリア・ランド・ブリッジ構想推進事業」を実施するなど、新たな取り組みも行っています。発展の見込まれる沿海地方との交流をより一層活発化させ、絆を深めていきたいと考えています。